

大館市総合教育会議
会 議 録

令和元年11月開催

令和元年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和元年11月21日 木曜日
開会 8時45分 閉会 10時50分

2 会 場 大館市役所 本庁 第2会議室

3 出席者 大館市長 福原 淳嗣
大館市教育委員会 教育長 高橋 善之
教育委員 山田 和人
教育委員 清野 克子
教育委員 小笠原 正卓

(事務局関係)	教育次長	本多 恒博
	教育監	山本 多鶴子
	教育総務課長	成田 浩司
	教育総務課長補佐	鈴木 明
	学校教育課長補佐	小松原 功秀
	生涯学習課長	一関 留美子
	中央公民館長	山口 和博
	歴史文化課長	長崎 美幸
	スポーツ振興課長	松田 新一

4 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

5 会議内容

○本多教育次長

皆さま、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、令和元年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議の構成員の皆さまの出席状況ですが、根田委員が都合により欠席となっておりますので、構成員6名中5名の出席となっております。

まず、会議の公開の取扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はありませんが、報道関係者の方がいらっしゃいます。

会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項に基づき会議を公開とし、傍聴等を許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

「異議ありません」

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、当会議の招集者であります福原市長がごあいさつを申し上げます。

○福原市長

令和元年度第1回大館市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

令和初の予算編成が始まっていますが、私が一期目の就任当時、大館には何もないという雰囲気がありました。人口が急速に縮減していく中で、その雰囲気を壊さなければ、大館の持続可能性を持たせるまちにはできない、私たちが勇気を失っては終わりとなってしまう、だからこそ、大館が持っている強みを市民の皆さんと共有しようとすることに力点を置いた4年間でありました。それは人づくりに傾注しないということではなく、教育長と一緒に人づくりのために何をしなければならぬのか、ということに貫いてきました。ふるさとキャリア教育は着実に広く知れ渡っていると思っています。

ここからは生涯学習になりますが、人口が縮減していく中で、このまちが本当に生き残れるかどうかは、子どもたちに適正な教育の場面を作ることと併せて、全ての世代の学びたいという気持ちを鼓舞させられる仕組みを、きちんと大館が持っているかに尽きると思います。

私も含めて教育委員の皆さまの世代は、他人に与えられた問題は必ず一つの正解がある、受験という仕組みはこの考え方を作ってしまい、日本人はこの呪縛からまだ解放されていないと私は思います。問題は与えられるものではなくて、気付くもので、解くのはチームです。それをふるさとキャリア教育は既に実践していると思っています。

だからこそ人口が縮減していく中で、学びたい、未来に対して挑戦したいというやる気を起こすまちの仕組みを作っていく切っ掛けにしたいと思っていますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたしまして、開会のあいさつといたします。本日はよろしくようお願いいたします。

○本多教育次長

続きましてこれより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要項の規定により福原市長をお願いいたします。

○福原市長

次第によりますと高橋教育長のあいさつとなっておりますので、よろしくようお願いいたします。

○高橋教育長

市長におかれましては、格別の教育に対するご理解とご支援を賜りまして、本当にありがとうございます。

11月に入りまして嬉しいニュースがありました。一つは秋田魁新報主催の第1回秋田県活性化中学生選手権において、最優秀賞に成章中が選ばれました。陽気な母さんの店との連携を考えて、いろいろな企画、陽気な父さんのお店など、地域を活かしたプレゼンをして最優秀賞をいただきました。講評の中に、プレゼン力、ふるさとに対する理解など文句なしの最高点であると評価してもらいました。私は、ふるさとキャリア教育の申し子として、正に象徴として嬉しく、地域の方々も非常に喜んでいきます。

二つ目は下川沿中学校が中学校秋季軟式野球大会で初優勝をしました。全県規模の野球大会での優勝は、四半世紀なかったのではないかと思います。成章中学校の生徒数は48人、下川沿中学校は60人です。全県規模の中でも最も小規模に属する中学校の生徒がこのような成果を出した。正に大館が目指す少数精鋭のまち、未来を構築する子どもたちであると思ひまして、私たちが元氣と希望をいただきました。このような形でいろいろな成果が出てきている要因としては、市長の思い、市長部局と教育委員会との連携がしっかりできているからだと思ひます。

先日、「教育長・校長プラットフォーム in 大館」で訪れた文部科学省のキャリアのある方が、新しい教育委員会制度がスタートして5年ほどになりますけれども、最も機能的に実効性のある形で動いているのが大館である、ということをお話ししておりました。大変嬉しいことです。

具体的な来年度のいろいろな構想等については、ご説明申し上げますが、一つお願いがございます。予算の問題でございますが、施設整備に関するハードの部分、運営に係るベーシックな部分など、これはもちろん私は、市の財政状態を十分に理解しておりますので、それについてはきちんと財政規律を守りながら、確実に進めていくということをお願いしております。

そしてもう一つお願いしたことは、大館の教育のソフトの分野では、前人未踏の領域に今入っていて、その最先端を進んでおりますので、想定できなかったチャンスが出て来る時がある。チャンスは一度逃すと二度と来ない。そのチャンス、意味とか価値を素早く捉えて、スピード感を持って対応していきたいという思いもありまして、そのような場面での重要な予算執行について、ご理解を賜れば大変幸いと存じます。

どうかよろしく願いいたします。

○福原市長

ありがとうございました。

ソフトの面ではきちんと対応していきます。ハードの話では、マイナス金利時代において、私たち公務員も自分たちの人件費をコストとして見なさいということになってくる。コストを考えないで、税金という包括的な定価で納めてもらうことで総合的なサービスを提供しているけれども、そこにファイナンス、資金調達というものを考えて行政もガバナンスしなさいという時代になって来ている。

次第の4の協議事項に入りますが、協議に入ります前に事務局から発言を求められておりますので、発言を許可します。本多教育次長、どうぞ。

○本多教育次長

議事進行は議長である市長が行うこととなっておりますが、市長にも教育長、教育委員と十分に協議をしていただきたいと思いますので、昨年と同様に今回も事務局の方で進行をして、市長にも十分にお話をしていただきたいと思いますので、いかがでしょうか。

「異議なし」

○福原市長

異議なしとのことでございますので、進行は事務局にお願いいたします。

○本多教育次長

それでは、「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」、順次ご説明を申し上げます。

なお、施策テーマは6件ありますけれども、1件ごとに協議をしていただきながら進めて参りたいと考えておりますので、自由なご意見等をお願いいたします。

はじめに、高橋教育長から「大館教育の充実とツーリズムの推進」について説明をお願いいたします。

(「大館教育の充実とツーリズムの推進」について、高橋教育長が説明)

○本多教育次長

ただ今のテーマについて、協議をお願いしたいと思います。ご発言のある方は挙手をお願いいたします。

○山田委員

英語教育について私も非常に興味のあるところで、微力ながら各小学校へ絵本の贈呈と全中学校へ英字新聞を5年間購読できるよう昨年度手配させていただきました、幾ばくかの効果があることを期待しております。

今回、東中学校にアイパッドを贈呈させていただきました。今の英字新聞を読む場合は、アイパッド、スマホ、 아이폰などがあれば、新聞にかざすだけで全部読んでくれる。そういうふうな手段や方法や機材など、前回市長からお話いただいたように民間から寄附したらどうか、ということで今回細やかながら寄附をさせていただいた訳です。民間からの寄附を募りながら学校へ機材を提供すれば、そこでも子どもたちが格差なく英語に触れられるということが、非常に重要なことだという気がしております。ぜひ、そういう形のを教育委員会から民間企業へこのような訳でお手伝いできないだろうか、という発信もこれからどんどん必要になって来ると思います。市の財政が逼迫していることはみんな承知しているので、企業と一緒に子どもたちの教育へという提案な

ど、これから必要となって来る気がしております。特に英語教育については、これからますます情報発信を教育委員会からしていただきたいと考えております。

○清野委員

私は元学校現場にいましたので、そういう立場で学校訪問、いろいろな会合に出ています。ですから、見せていただく視点というのは、皆さん学校にどのように関心を持っているのか、どの点を見たくて教育ツーリズムにこんなに関心しているのか、の点でございます。

この間のプラットフォームもそうですが、異業者の方々が大館にいらっしゃいました。何をご覧になりたいのか、何をお知りになりたいのか、それに関心がありまして二日間出させていただきました。一日目の授業は中学校に参りましたが、小学校のふるさとキャリア教育が8年かけて良くやられていて、中学生にどうつながるのか、私は中学校にいましたので、そこが一番気になりますし、関心がありました。今回私は第一中学校に行かせていただきました。理科の授業、1, 2, 3年とその授業全部提供していただきました。理科の授業を通しまして、子どもたちが本当に生き生きと学ぶ姿勢を見せてもらいました。先生方も今大館でやっている授業のスタイルをきちんと押さえて、子どもたちの活動を見守るという授業が展開されていました。全国からいらした方々は、やはりそこに共感して、ここが自分たちのところで求めているものだという視点でご覧になっている。そして、その感想も述べられておられました。

私が一番驚きましたことは、八戸市から教頭先生が若い先生を連れて来ました。実は何日か後に研究授業があるということで、何をやればいいのかいろいろと具体的に質問をされていました。会の途中で教頭先生に「お疲れ様でした」と声をかけたところ、「若い先生3人は先に帰りました」とおっしゃいました。帰られた理由は、何日後の授業にすぐに活かせるということで、指導案などの準備をするためでした。現場は、新しい指導要領に向けてすぐに提示、提案できる体制が大館ではできているということ、私は目の当りに見せていただいたと思います。

もう一つは、東中学校で50周年の記念行事がありましたが、生徒の自主的な感想の発表の中で、生徒の多くは「地域の方のお世話になりました。これからもよろしく願います。」という主旨の内容の発表でした。子どもたちの気持ちからそういう言葉が出てきたことは、地域の方々と協力して、実感して出てきた生の言葉だと思います。中学生もしっかりと感じて育てられている。そして、その子たちは高校生になって、その後、地元に戻って来てくれる。大館の人材は、確かに育てられている手ごたえがあると私は思いました。大館のふるさとキャリア教育は確かなものがある、ということを目の前で展開して見せていただきました。

財政のことが先ほど出ておりましたが、学校の予算配当について申し述べさせていただきます。先日の地元紙に、山瀬小学校がほくしか鹿鳴ホールを会場にして合唱祭を開催したことが紹介されていました。大ホールに響いたハーモニーは児童、保護者をはじめ参観した人たちに日頃の学習活動の成果を実感させ、児童にとって大きな自信になっ

たことと思います。

ところで、市街地から離れている学校にとってはその分、必要経費の掛かり増しが発生するものです。このたびは、ふるさとキャリア教育に関わって大館市から学校裁量で予算執行できる財源が各学校に均等に配当されている中から充当できたように伺いました。

また、早口小学校は恒例の「徒渡り」の行事を今年度は、児童の主体性を育むことを目指した活動として展開し、当日は地域以外からも多くの参観者があり高い評価を得ております。こちらは、市の「夢プロジェクト」に応募して選ばれた3校の中の1校として別枠の財源も配当されて、実現した教育活動と伺いました。

このように今年度も学校は各地で地域の方々の協力を得ながら、特色ある教育活動を継続的に重ねてきております。その活動を支える財源は、有効に活用されております。

次年度以降も、財政面でも厚いご支援が継続されるよう、よろしく願いいたします。

○小笠原委員

私は保護者の立場として子どもを通して、教育現場に関わっております。それから、実際にPTA、保護者として、学校の先生方と直に話をしております。

教育ツーリズムでは、僕が子どもの頃には考えられないようなお客さんの数が毎日のように学校に来ています。子どもたちは慣れていて、普段の姿をお客様に見せられているということは、本当にありがたい。訪れたお客さんは、学校の先生方の努力の賜物だと感心しておりました。

プラットフォームで授業を観ていただいた皆さんに聴いてみると、一番皆さんが注目されるのは、子どもたちの反応する力でありました。僕が大学の恩師に言われた言葉でレスポンスビリティ、責任という意味ですが、レスポンスは反応、ビリティは可能性、正に人間にとって大事な責任という言葉は、反応する力だと思い出しまして、この子たちには、既に備わっていると感慨深く拝見しました。

一方、先生方も限られた時間、環境、人数など、子どもたちのためにいろいろなことを工夫しながら、授業を提供してくださっている。僕ら保護者としても何か助けてあげられることがないか、常々思いながら拝見しております。

今、大館市の教職員の皆さんは、年齢層として大量退職時代を迎えて、その後若い先生が入ってくると能力の継承が難しくなってくる。この間お話を伺った中で頼もしかったことは、経験が少ないとか、これから能力が備わっていく先生方は、能力のある先生方が教育した子どもたちと一緒に授業をすることで、その先生方は学んでいくというお話を伺いました。そういう意味では、大館の教育がこれから未来百年に向かって継承されていくことは、道筋としてはできているので、それを何とか柔軟に考えていただきながら、未来百年の大館に向かっていろいろなことをサポートしていただければと思います。

○福原市長

教育委員会に対する私のメッセージとして聴いてほしいのですが、経済学で大国モデルと小国モデルというものがあります。大国は大きな国、小国は小さな国、日本はずっと大国モデルでした。つまり自分たちの国の中だけ見ていけば経済が完結している、特に農林水産省、厚生労働省、文部科学省の行政がそうでした。それではだめだということで、大国モデルから小国モデルに切り換えて外に向けて日本の良さを発信するための最前線の基地として、観光庁を国土交通省の下に設けました。何を言いたいのかというと、こんなにお客様が大館に来るのであれば、観光課、あるいは秋田犬ツーリズムと組んで地方創生交付金、東北復興交付金を使うことができる。それぐらいのボリュームとになっていて、遠慮する必要は全くないと思います。

日本の人口が急速に縮減しています、それで経済同友会を構成している大企業が考えたのが、一回で自分たちの財やサービスを買ってもらうのではなくて、何回も買ってもらったりリピーターになってもらうために、今の「コトづくり」を始めました。これが先ほどの山田委員の民間の側から提供してもらいなさいということで、そこをうまく導き出すことができるのも、私はこれからの教育委員会だと思っています。

各委員から財政の話がありましたが、教育委員会の予算でなくても教育委員会が主導権を握って持って来ることができる予算がある、そこを気付いてほしい。冒頭の私のハードの話というのは、恐らく子どもたちの人口はどんどん減っていくので、学校の議論を今のままでは「統合」、「いらない」、「解体」ではなくて、あらゆる世代の学びたいという人を増やせばいい。そこに気付けば投資する民間が現れます。小笠原委員の働き方改革、校務支援、部活動の支援なども先生方の物理的な重荷をできるだけ減らすように持っていくのは当然だと思います。

私の大学の時の友人に中国の方がいて、なぜ日本語を学びに来ているのか尋ねたところ、中華人民共和国の前の清の国のことを学びたいと思っています。ところが自分の国に帰ってもほとんど史跡はなくて、日本にあるから来たと言っていました。中国の本当のエリート層というのはそういうふうな形で、日本に来ている人はそのような人です。およそ本当の富裕層というのは、チューターという人を付けます。専属の家庭教師で、教えるのは勉強ではなくて人としての生き方、学問は教えなくて、「今日は釣りに行こう」とか「山に登りに行こう」とか、その人はいろいろなことを知っているのだから、山に登るときでもいろいろな葉っぱや木について教えてくれる。釣りをやってもいろいろなことを教えてくれるし、天気のことも教えてくれるし、地質のことも教えてくれる。それが教育長の言っている「大館盆地を一つの学校」ということだと思います。

清野委員の徒渡りのお話がありましたが、あれは良かったですね。多分日本全国で川を渡らせる学校は早口小学校だけだと思います。これは水管理国土保全局、昔の河川局が絶対喜ぶと思えば能代河川国土事務所の所長に相談したところ大変喜びました。早口小の徒渡りが町の中に来ると、下川沿中、川口小、片山から美園町に入ると城西小、一中、大町に来ると城南小、桂城小、長木のところに行って水神社の前を通過して上がって来ると有浦小、東中、それが卸団地を通過して釈迦内に入ると釈迦内小、北陽中、もっと北上

すると矢立小、つまり早口小の徒渡りを水、あるいは羽洲街道、歴史街道とすると別のところから予算がある。そのように見ていると非常に面白いと思います。これを教育長のことばを借りると異質なものと邂逅が新しい気付きを与える。これを経営学ではオープン・イノベーションと言います。教育委員会はオープン・イノベーションを起こす組織なのです。

○山田委員

もう一つ言わせていただくと、教育ツーリズムの状況ということで957人の滞在人数がある。教育委員会は、ある意味観光課であり物産課である。ここを上手にこの方々にオファーをして、つなげていながら日本にこれしかないようなツーリズムができる可能性がたくさんある。そのへんの提案を象徴的に大館市で組んでいく、観光課、土木課など大館が一つになっていく切っ掛けがここにある気がします。

○福原市長

先々週知事と大連に行ってきたのですが、600万人の大連市と100万人を切った秋田県で相互交流、経済、貿易は普通ですが、大連も寒いのでしょっぱい物を食べるので、脳の疾患が多い、脳研がある秋田と組みたい、高い教育があるので組みたい。そうやって来ると、もう既にこの仕組みは世界に出してもおかしくないレベルにあるので、そういうものをどんどんつなげていきたいと思います。

タイ王国とはもっとつなげていきたいと思います。それは何故かという、気質は同じです。工業国は農業大国でないと実現できない、中東は絶対ものづくりの国にはならない。何故かという、農業は水を管理します、実は水を管理することは工場のオペレーションに通じます。ですからタイ王国は、まさしくものづくりのハブ、パーツが自然に集まってタイ王国から世界中に輸出をすることができる。オープン・イノベーションを起こすには、ニュージーランドだけでなく、外とどんどん大館の市民をつなげていく必要があると思います。

○本多教育次長

次のテーマに移らせていただきます。

次のテーマ「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、担当課長が説明します。

(「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、成田教育総務課長が説明)

○本多教育次長

ただ今のテーマについて、皆様のご協議をお願いします。

○福原市長

20%とか30%とか対応できていない。(校長会、PTA、学校からの改修・改善要望に対応できた割合)

例えば、これをどういうふうにすれば50、60%になるのか。もう庁舎ができたので、建設の業界としては大館には種(仕事)はないという話になっている。本当にそうなのかと私は思っている。従前の教育総務課の仕事のレベル、同じような発想を変えるためにはどうすればいいのか。ある程度資本力のある会社は、一括してやっていいですよ、それが抵触するのであれば業界で会社を作って購入するやり方もある。そこは財政も巻き込んで、発想を変える必要がある。私も責任を持ってやりますので、究極はPPP、市民のために学ぶ場所が必要だと思います。この辺のビル、テナントは、全然使われていない。これを使うためには、ソフトとしての学びが絶対必要となる。

交流人口の拡大につなげる説明で、経済効果の部分が重要だと思います。併せて、文化的なイベントに市民の皆さんに触れさせてもらえるというのは、非常に重要だと思います。

○小笠原委員

私から一ついいですか。建物とかハードについてですが、ペンシルバニア大学に行った時に、教室に企業とか個人の名前が付いている。これだけ充実した大館の教育に民間企業がどうやって支援するかというと、そこがすごく分かりやすいと思います。ですから、例えば山田政一商店・大館東中学校とか。

○山田委員

そうですね。そういうふうなドネーション(一般的に寄附)がないとこれからやっていけなくなると思います。それを教育委員会としてこういう状況、これだけ素晴らしい教育をしているということをもっと発信していくことで、延いてはクラウドファンディングなど、財政的に充実していくと思います。

○福原市長

今はマイナス金利で、預けていても減っていく時代です。貯まった資本を動かすアイデアだったり、仕組みに価値がある時代、お金に価値がない、データの方が価値のある時代なので、それをどう活用するかというと今のような話になると思います。

○本多教育次長

3点目のテーマに移らせていただきます。

「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、担当課が説明します。

(「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、小松原学

校教育課長補佐が説明)

○本多教育次長

このテーマについては、1点目の高橋教育長のテーマと重複するところがありますが、これについて皆さんからのご意見を伺いたいと思います。

○福原市長

教育長にお聴きしたいですが、教育長の中にある統廃合のビジョン、今統廃合するべきでないとなれば、私は全面的にサポートします。

○高橋教育長

基本的な姿勢としては、小学校は矢立小に複式がありますが、教育のクオリティにおいては極めて高いものがありまして、昔は複式になると学力が下がってしまうと言われてきましたが、今は逆になっている。小学校につきましては、地域との関わりを含めて極力残していきたい。中学校に関しては、教科の免許を持った先生方が全員揃わないとか、部活動の問題も出てくる。そのようなこともあるので、中学校も地域との関わりも大事ですが、逆に地域全体の活動に貢献する立場にありますので、その観点から中学校の方を先に考えていかなければならない。

○福原市長

恐らくそこに今まで議論してきた教育ツーリズム、大館で学びたいとい人が年間2千人、3千人来る普通のまちになる。また、ハードの捉え方も変わってくると思います。

○山田委員

私が安心しているのは、こども園、幼稚園と学校がかなり緊密に連携している体制を取っています。「切れ目のない」というのが非常に大事で、幼児の時に少しやって、小学校に入ってやって、中学校に入ってまたやる。実は私、剣道をやっていた時に中学校で教えてもらった剣道が、高校で違って大学でも違う、何をやっていたか分からなくなってしまった苦い経験がありましたので、「切れの目のない」ということが大変重要になって来ると思いますので、ここは慎重にご検討いただくよう、強く要望したいと思います。

○福原市長

日本語は面白くて主語を使っていないですね。こういう言語(げんご)は日本語だけです。その代り語意数がめちゃくちゃ多い。これは私たち日本人の御先祖様が如何にあらゆるものに関心を持ってきたかの表れだと思います。ですから英語を学ぶというのは、母国語である日本語の良さに気付くことであってほしいと思います。

○清野委員

この間、乳児園に行ってみりました。嬉しかったことは、園長先生のご説明の中に朝7時から夜7時までお預かりの時間帯で、その後に「遅れる方がいませんか」という質問があった時に、あったとしても「ここまでです」ということをお伝えしています。これが嬉しかったです。

もう一つは、企業として子どもを預かってはいるけれども、ここで育てるという理念をきちんと持っていかなければならない。そういうふうなコンセプトをしっかりと伝えていただいた。子どもを何時に来てミルクを与えるだけではなく、人として育てるということが大変大事にしている幼児教育が、大館市では展開されているということを見せていただいたと思います。

○小笠原委員

英語教育、英語は目的であって手段ではないです。そこを目的として捉えられるような英語教育であってほしいと思います。もう一つ、大館の教育を学びたいという子どもそして保護者は、市外、首都圏にたくさんいると思います。ぜひとも彼らを連れて来て、ここに住んでもらうという人口増の対策が必ずどこかにあると思います。

それから、今年ニュージーランドから帰ってきた子どもたちが市長にご報告に伺いました。それで市長にお願いがあります。ビデオメッセージでもいいです。何か子どもたちに市長がそこにいらっしゃるとか、テレビのどこにいらっしゃるとか、そういうことをお願いしたい。市長が直接伝える機会を少しでも多くしてもらうことで、子どもたちは大館市民として育っていくと思います。よろしくお願いします。

○福原市長

これは最低でもビデオメッセージで伝えたい。

渋谷の観光協会の事務局の方が大館に何回も来ているうちに、自然と挨拶をしてくれる大館の子どもたちに興味を持っています。これをどんどん広げていきましょう。

○本多教育次長

次のテーマに移らせていただきます。

次のテーマ「ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援」について、担当課長が説明します。

（「ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援」について、一関生涯学習課長が説明）

○本多教育次長

このテーマについて皆さんからのご意見を伺いたいと思います。

○清野委員

県の生涯学習センターでやっている講座にここ何年間か行っておりますが、本当に驚くのは、大ホールの130人ほどの席がいっぱいに埋まります。私は、電車とバスで乗り継いで生涯学習センターに行きます。前は時間とお金を掛けて行くということに、やらない理由を自分で考えていたけれども、ある切っ掛けで90歳以上の知り合いの方がそこに通っている、というお話を聞きました。それで行かない理由をいろいろ並べている私は一体何だろう、と思うようになりました。勉強をしたかったらお金も時間も掛かる。

ここ数年、午後からの講座を選んで行っております。周りの方々は、終わると自転車や歩いて帰って、秋田市内の方々はそうやって学んでいらっしゃいます。私はいいなと思いつつ、急いでバスと電車に乗って帰って来るわけですが、皆さんも学びたいと思う講座を選んで勉強できる機会、人生百年の時代ですよ、これからますます生きる意欲より学びの意欲だと思います。私は、大館市民の方にそういう場を作っていたきたいと思います。

○小笠原委員

私は木育に関してお話をさせていただきます。実は私のクリニックのリニューアルに向けていろいろと準備をしていますが、待合室で待っている間どうやって過ごしてもらおうか考えておまして、生涯学習課長から紹介していただいた木の積み木を買ってきました。試に使ってみようとそこに広げて置くと、子どもたちは本当にクリエイティブな遊びをしています。子どもたちは、本能でいいものが分かる、という意味ではこれは非常にすばらしい取り組みで、これを大館から発信して日本全国に広がっていってくれば大変ありがたいと思います。お年寄りの方も手に取ってこれは何だろうと、磁石でくっつくのでそれをやってみたり、全ての年代の方々への心に対する温かさがあり、すごくいいものだと感じましたので、更なる充実をお願いしたいと思います。

○山田委員

大館は元々木の文化が非常に盛んなまちですね。それを全面に出して、しかもそれがおもちゃだ。そのおもちゃが何かというと、積み木、クリエイティブなおもちゃです。スマホやらテレビゲームを離れて、木で遊ぶ文化をここの大館からここを中心にして発信してほしい。各家々に行ったら子どものおもちゃとして積み木がある、というぐらいの発信力を持っていくと、大館の子どもは、積み木で遊ぶからクリエイティブだ、ということをもっと発信できると思う。これは本当にいい企画だと思います。

○福原市長

農林課の予算でというところが良かった。ちなみに今、霞が関では官公庁と組まないとか新規の予算は持って来ることができない。官公庁と組んで100要望します、財務省主計局に250で返ってきたということがあります。あと長寿課とか子ども課とつなが

っていくことはすごくいいことで、それがオープンイノベーション、絶対良いと思います。リカレント教育は、今の進め方でやっていただきたい。

○本多教育次長

5点目のテーマに移らせていただきます。

「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、担当課長が説明します。

(「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、長崎歴史文化課長が説明)

○本多教育次長

5点目のテーマについて皆さんからのご意見を伺いたいと思います。

○山田委員

埋蔵文化財事業のところで、「世界文化遺産への登録の機運に合わせて、体験型イベントを実施する」とありますが、ここに一言「学術的な見地から」ということを付け加えてほしい。

つまり、「体験型イベント」は、ただ行って見て来れば体験型かというものではなくて、そこにいろいろな要素、例えば、地学的な要素、知的な要素、それから地政学的な要素、気候学的な要素とか様々なものがある。それらをひっくるめて学芸員の方々やガイドの方々が付いて、体験型をするのでは全然違ってくると思う。そこを上手に付け加えて、大館の魅力をどんどん加速度的に発信できるのは、学術的な見地から体験型イベントを構築していただくことが大事だと思いますので、ここに一言付け加えてほしいと思います。

大館は豊かな食文化を持っている。例えば4番目として「地域食文化の提唱と可能性の追求」のような文言が入っているのではないかと思います。この地域にある食材を再認識するとともに、伝統的調理法の継承と従来の食材の新たな可能性を体験できる事業を展開するなど、一項目付け加えていただくと、五感で体感できる大館がもっとはつきりしてくる。教育委員会とは別ですが、生涯学習課が一生懸命やっているので、そういうふうな五感で感じられるような事業を展開すると、もっと幅が広がっていくと感じられますので、ぜひ提案させていただきます。

○福原市長

賛成します。山田委員の提案について、食の文化ですよね。木育もそうですが、元々私たちの基幹産業であった農業と林業へのリスペクトを生む、そういう意味で絶対やってほしいと思います。

あと、文化財庭園保存技術者との実技研修会の件は、着実に進めてください。昨日も

中国からお見えになった方々、鳥潟会館を含め非常に感激しておられました。これから往來が増えると思います。そのときに私たちが誇れる場所ですので頑張ってください。

○小笠原委員

子どもたちにどこか大館市内に遊びに行こうと誘うと、郷土博物館、鳥潟会館という返事が返ってくる。一緒に行くと彼らは何を感じているか分からないが、本当に整備された日本古来の庭園や建物は、理論的ではない何かを彼らに与えているのではないか。本物がある大館は、教育としてはすごくありがたいと実感しました。ぜひこのように少しずつですが整備を続けてもらい、それと併せて桂城公園もよろしく願います。

○清野委員

体験型イベントの実施について、市民の方々に呼びかけるとは思いますが、子どもたちにも知的好奇心をくすぐりながら、それを研究したいと思う子どもも出るかもしれません、そういうことも想定しながら実施をお願いしたいと思います。

○本多教育次長

6点目の最後のテーマに移らせていただきます。

「市民スポーツの振興とスポーツ交流の拡充」について、担当課長が説明します。

(「市民スポーツの振興とスポーツ交流の拡充」について、スポーツ振興課長が説明)

○本多教育次長

6点目のテーマについてご協議をお願いしたいと思います。

○高橋教育長

秋田県の都市教育長の研修会での雑談の中で、オリパラに向けて秋田市は、ラグビーのワールドカップの時にフィジーの合宿地になったが、オリンピックは他の市に負けてしまった。仙北市は、タイ王国の車いすバスケットで一回来たということですが、そもそも予選で勝てるかどうか難しい状況だという情報で、この9か月前でまだまだ不確定なところもあるとういことを感じまして、大館は既に一回やっていますし、また、2月にも来るということで、準備を進めるに当たっていい状況であると改めて感じました。そういう意味でも万全を期して事前合宿を成功させたいと考えています。

○福原市長

私たちは、ただ単にパラリンピックを盛り上げるだけではなくて、何れ私たちが迎える超高齢化社会、身体障害者の7割が65歳以上の高齢者だそうです。そういうものに関してきちんと答えを出す切っ掛けとして、担当課が意識して動いてくれていることは非常に嬉しいと思います。

応援ツアーは組んだ方がいいですね。

○本多教育次長

ツアーについては、できるだけ市長も同行できるような形で組みたいと思います。

○福原市長

スポーツコミッション、スポーツを基軸にした秋田犬ツーリズムだと捉えていただければ幸いです。スポーツコミッションがないと、今後、スポーツ庁が展開する事業の補助金の対象とならない、そのためにもこれはできるだけ早く作ってほしいと思います。この中にeスポーツも入れてほしいと思います。これには理由がありますが、先ほどボキャブラリーの話をしたように、英語を介して日本語の語彙の語数の多さに気付いて、日本語の良さに気付くことが、アルゴリズムの理解につながる。

すごい超天才のマンガの描き方とか、ボキャブラリーの数の多さに比例するパターン化なのです。そのパターンが多い人間ほど、いざというときにアドリブでできる人は、それがめちゃくちゃある。実はこれがAIにもつながってくる。eスポーツの話だけでここまでできるというのは、多分ないと思いますがそういうことも含めて、これこそ選挙ですと掲げている、スポーツや学びを通じて人が育つ、まちも育つまちづくりの根本は、やはりここにあります。

今、秋田市と秋田県が秋大のキャンパス側でやろうとしているのは、仙台の駅の東側でやっていることと全く同じやり方です。仙台駅の東側には、楽天球場があり、フットサルコート、クリニックモールがあって、新興住宅地を整備している。そうなってくると、スポーツの施設やプロスポーツ化がどんどん進んでくる。そして、プロスポーツ化が進んでいる野球、バスケット、ラグビー、サッカーは、秋田県の中でもしっかりと残る。だから大館にはフィールドは要らないと思います。その代り秋田に来たプロの人たちの2軍、あるいは3軍が現職でやっている小、中、高校生に教えるフィールドは必要と考えております。

今、経済界で考えてきているのは、某大学を基軸にした大学スポーツのビジネス化、既に議論が終わって実際に動いている。そこを捉えていく必要があると思います。

○小笠原委員

子どもたちの置かれたスポーツの状況、市長と語る会の懇親会でいろんな方と話をしてきました。一番多かったのはスポ少です。子どもたちが残念ながら減ってきている中で、チームスポーツ、野球やバスケットボールが主なものだと思いますが、今までは小学校の部活動ということで学校の先生方が時間を割いて教えてくれていたのが成り立っていましたが、それが数年前からスポーツ少年団になってシステムが変わりました。それでも団体としては、小学校の単位を維持していかなければいけないという雰囲気はまだ残っていて、そこにコーチはどうするか、保護者がやってくれていますが、保護者はそのうち子どもたちが卒業すると、保護者もコーチができなくなってしまう。

今、少し悪い循環になっている。さらに非常に難しいですが、野球なら野球、ミニバスだったミニバスを所管する団体がルールに縛られてチーム構成をめっちゃめっちゃにしている。これは非常に難しい問題で、心ある保護者で子どもたちにスポーツができる環境を与えてあげたいと思っている人たちがどこにどう相談したらいいのかわからない状況になっている。教育長からご紹介いただいた下中の子どもたちの活躍も元はそこです。そういう子どもたちからしっかり育てて行かないと、大変厳しい言い方をしますがこの計画も破壊します。そのへんのサポートを今、誰がどのようにリーダーシップを取っていいのかわからない状況ですので、そこは福原市長に何とかお願いしたいと思います。これは、PTAの方々の総意だと思います。

○福原市長

昭和、平成と続いてきたやり方が、人口が縮減する令和でも続くとは思わないでほしい。先の冒頭の話になるのですが、与えられた問題には一つの完璧な答えがある、という受験の思考から解き放されなければならないものは、教育とスポーツと学びに行き着くと思います。いい意味で支えてくれた方々にも「気付き」を持っていただくために、第一線級で活躍された方の講演を聴くことから入るべきであると思います。

○高橋教育長

学校を中心とした今の形は、完全な社会スポーツ化に至るまでの過渡期の形であり、平成26年に初めて社会スポーツ化ということで切り離しました。今は過渡期であるということをご理解いただいて、その先の姿を作っていく必要があると思います。

○本多教育次長

ほかにご意見等ございませんか。

大きい協議事項につきましては、これで終了させていただきたいと思います。それでは、議事進行を議長にお渡しいたします。

○福原市長

改めて進行させていただきますが、何よりも教育総務課、学校教育課、生涯学習課、歴史文化課、そしてスポーツ振興課の各課におかれましては、平素より精励していただいておりますが、本日の教育委員の皆さま方の議論を踏まえまして、ぜひ次年度に係る施策に反映させていただきますよう、改めてお願いを申し上げたいと思います。

これで議長の職を解かせていただきたいと思います。本当に円滑なご審議にご協力いただきまして、しかも実りあるご審議にもご協力いただきまして心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

○本多教育次長

これをもって第1回大館市総合教育会議を終了させていただきますけれども、本日の

新たな提言、ご意見、ご要望等を踏まえまして、来年度以降の施策、事務事業の展開を
させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。